

モ多量ナリ只加里ニ至リテハ中庸以下ニアルガ如シ蓋シ本沖積土ノ石灰苦土及磷酸ニ富メル所以ノモノハ前項ニ於テ既ニ説述シタルガ如ク立山産出ノ凝灰質泥灰岩ノ分解物ヲ挾雜スルニ依ルモノナランカ以上ノ成績ニ徴スルニ本土ハ化學成分ニ於テ貧乏ナリト云フベカラズ

吸収力試験 上條附近ノ土壤ハ磷酸ニ對スル吸収力稍強度ナルモ窒素ニ對スル吸収作用ハ薄弱ナルモノナリ新庄村ノ土壤モ亦窒素ニ對スル吸収力ハ前者ト其係數ヲ同フシテ中庸以下ノ程度ニ位スルモ磷酸吸収力ハ前者ヨリ遙ニ薄弱ナリ滑川町附近ノ土壤ニ至リテハ窒素ニ對スル吸収力極メテ微弱ニシテ其係數百「ミリグラム」ニ達セズ磷酸吸収力モ亦低度ニシテ本沖積地土壤中最モ低度ナルモノニ屬ス這般土壤ハ其土地改善上吸収力ノ増進ヲ計ルヲ以テ主眼トセザルベカラズ要スルニ本地ノ養分吸収力低度ナルノ一大理由ハ有機質ノ缺乏ニアルヲ以テ宜シク此點ニ留意シ努メテ堆肥大豆粕其他ノ有機質肥料

ヲ施シ以テ漸次土地ノ改善策ヲ講ゼザルベカラズ

理學性 上條村附近ニ於ケル土壤ノ理學性試験ノ成績ヲ見ルニ孔竅ニ富ミ且ツ適度ナル含水量ヲ有シ粗密兩狀態ニ於テ適度ノ水濕ヲ保收シ尙大氣ヲ收容スベキ餘地ヲモ存ジ理學性極メテ良好ナリ滑川町附近ノ土壤モ亦孔竅多大ナリト雖モ前者ニ及バズトス從テ濕潤ナル境遇ニ在リテハ大氣ヲ收容スベキ餘地亦尠少ナリ然レドモ之ガ爲メ霖雨ニ際シ土層中大氣ノ缺乏ヲ來タス等ノ憂ナク氣水ノ滲透自在ニシテ佳良ノ理學性ヲ具備スル土性ト云フベシ

早月川沖積地土壤試験成績

土壤試験成績

土性	第四紀新層壤質砂土
地名	中新川郡早月加積村四ツ屋
側斷面番號	XIX

洗滌分析		化學分析		吸收力試驗		理學性試驗	
粒徑	氣乾土 百分中	成分		百「グラム」土壤 吸收量「ミリグラム」		填充ノ度粗土密土	
		重量百分率 (乾燥土) 百分中	容量百分率 粗土 密土	收窒係數	收磷係數	比	容積比
一〇糎以上	〇、二一	水分(氣乾土) 百分中	一、一八五	收窒係數	一五八、六四〇	比	二、五〇七
一〇乃至八糎	〇、〇二	燃灼際ノ消失	二、〇四〇	收磷係數	二八、五六〇	容積比	一、一六一
八乃至六糎	〇、〇九	炭素(腐植) 質中植	—	主成分及吸收量ヲ 細土中ニ改算ス	—	土壤ノ重量(百立方センチ メートル)	一七、三二〇
六乃至四糎	〇、三三	全窒素	—	—	—	中ニ沈定セシ容積	八〇、〇〇〇
石礫合計	〇、六五	不溶解殘物	八八、一八四	—	—	水中ニテ百立方「センチメ ートル」ヲ充實セシ土壤ノ重量	一一五、〇〇〇
原土中細土 (百分率)	九九、三五	鹽酸ニ溶解セ シ硅酸	〇、〇三八	—	—	容水量(重量) (百分率)	三五、八七二
四乃至三糎	〇、九八	炭酸曹達ニ溶 解セシ硅酸	四、二五二	收窒係數	一三四、六二二	容水量(容積) (百分率)	四一、六四七
三乃至二糎	一、三六	硅酸合計	四、九八二	收磷係數	二四、二三六	土壤ノ實積(容積) (百分中)	四六、三二〇
二乃至一糎	四、三八	礬土	一、七三六	主成分吸收量ヲ 原土中ニ改算ス	—	土壤ノ孔隙(容積) (百分中)	五三、六八〇
一乃至〇、五糎	八、四八	一酸化鐵	〇、六八七	—	—	最高ノ空氣透過 (氣乾土)	五二、四九五
〇、五乃至〇、一糎	二八、六二	一酸化鐵	一、六四八	—	—	最低ノ空氣透過 (氣乾土)	一一、二二三

洗滌分析		化學分析		吸收力試驗		理學性試驗	
粒徑	氣乾土 百分中	成分		百「グラム」土壤 吸收量「ミリグラム」		填充ノ度粗土密土	
		重量百分率 (乾燥土) 百分中	容量百分率 粗土 密土	收窒係數	收磷係數	比	容積比
一〇糎以上	〇、二一	水分(氣乾土) 百分中	一、一八五	收窒係數	一五八、六四〇	比	二、五〇七
一〇乃至八糎	〇、〇二	燃灼際ノ消失	二、〇四〇	收磷係數	二八、五六〇	容積比	一、一六一
八乃至六糎	〇、〇九	炭素(腐植) 質中植	—	主成分及吸收量ヲ 細土中ニ改算ス	—	土壤ノ重量(百立方センチ メートル)	一七、三二〇
六乃至四糎	〇、三三	全窒素	—	—	—	中ニ沈定セシ容積	八〇、〇〇〇
石礫合計	〇、六五	不溶解殘物	八八、一八四	—	—	水中ニテ百立方「センチメ ートル」ヲ充實セシ土壤ノ重量	一一五、〇〇〇
原土中細土 (百分率)	九九、三五	鹽酸ニ溶解セ シ硅酸	〇、〇三八	—	—	容水量(重量) (百分率)	三五、八七二
四乃至三糎	〇、九八	炭酸曹達ニ溶 解セシ硅酸	四、二五二	收窒係數	一三四、六二二	容水量(容積) (百分率)	四一、六四七
三乃至二糎	一、三六	硅酸合計	四、九八二	收磷係數	二四、二三六	土壤ノ實積(容積) (百分中)	四六、三二〇
二乃至一糎	四、三八	礬土	一、七三六	主成分吸收量ヲ 原土中ニ改算ス	—	土壤ノ孔隙(容積) (百分中)	五三、六八〇
一乃至〇、五糎	八、四八	一酸化鐵	〇、六八七	—	—	最高ノ空氣透過 (氣乾土)	五二、四九五
〇、五乃至〇、一糎	二八、六二	一酸化鐵	一、六四八	—	—	最低ノ空氣透過 (氣乾土)	一一、二二三

洗滌分析 早月川ノ沖積ニ係ル早月加積村土壤ノ洗滌分析成績ヲ見
ルニ粗粘土分ニ乏シク概シテ粒徑稍大ナル砂子ニ富メル壤質砂土々

リ而シテ是等砂子ハ片麻岩及花崗岩ノ風化物タル石英及長石ヨリ成
 リ組織輕鬆ニシテ耕耘極メテ容易ナリ下層ノ構造ハ砂土及礫土ヨリ
 成リ排水極メテ自在ナリ蓋シ此ノ如キ器械的組成分ヲ有スルモノハ
 保水力及養分吸收力ニ乏シク決シテ良好ナル構造ト云フベカラズ
 化學分析 本沖積地土壤ハ砂子ニ富ムヲ以テ鹽酸及炭酸曹達ニ溶解
 スベキ物質極メテ少量ニシテ兩者ニ不溶解殘物ハ八七%餘ナリ普通
 鹽酸ニ可溶性成分中多量ニ存ズベキ鐵及礬土ハ兩者合計僅ニ三%餘
 ニ過ギズ然レドモ植物ノ營養成分ハ比較的少量ナリ即チ磷酸ハ〇、一
 %苦土ハ〇、六%餘ヲ現存ス其他ノ有効成分ニ至リテハ孰レモ普通量
 ニ及バズ殊ニ本土ハ有機質ヲ缺損セルヲ以テ養分吸收力及理學性ニ
 不利ナル點多シ這般ノ土性ハ畑圃トシテハ其生産力低度ナルヲ普通
 トス

養分吸收力 本土壤ノ器械的組成分中粗粘土分及鹽酸ニ可溶性成分
 並ニ硫酸ニ溶解スル純粘土成分等ノ少量ナルト特ニ養分吸收力ニ最

モ重大ナル關係ヲ有スル有機質現存量ノ乏シキ等ノ爲メ磷酸及窒素
 ニ對スル吸收力ハ極メテ薄弱ナリ這般ノ土性ニ在リテハ肥料トシテ
 三成分ヲ填補スルニ際シ大ニ注意ヲ要スベシ特ニ可溶性肥料ハ成ル
 ベク之ヲ避ケ有機質肥料即チ堆肥及厩肥等ヲ施用スルヲ以テ最モ適
 當ナル肥料トス

理學性 本土ハ洗滌分析ノ成績ニ依リテ明ナル如ク粒徑稍粗大ナル
 砂子ニ富ミ孔竅多大ナルモ毛管孔隙ニ乏シク水濕ヲ收容スル力ハ薄
 弱ナリ故ニ粗膨狀態ニ在リテハ濕潤ナル境遇ニ於テ尙大氣ヲ收容ス
 ベキ餘地ヲ存ズルモ稠密ノ狀態ニ於テハ土壤ノ實積著シク増進シ從
 テ孔竅及含水量モ一層減退スルヲ見ル此ノ如キ土性ハ水濕ヲ保蓄ス
 ル力極メテ薄弱ナルヲ以テ土壤中水分ノ缺乏ヲ來タスノ憂アリ此ヲ
 以テ氣候常ニ乾燥セル地方ニ在リテハ植物ハ往々旱魃ノ害ヲ被ルノ
 恐アルヲ以テ理學性良好ナル土壤ト云フベカラズ

黒部川沖積地土壤試驗成績

細土中細微土 (百分率)	八、八八	成分	硅酸	三、三五七	一、八九〇	二、九一二	含「グラム」	水分	二、九九九	四、五七四
原土中細土 (百分率)	八〇、九六									

洗滌分析 黒部川沖積地ニ屬スル飯野村土壤ノ洗滌分析成績ヲ見ルニ其組織ハ輕鬆ニシテ粘性ニ乏シトス是レ細質物ヲ適度ニ含蓄セザルニ因ル今其器械的組成分ヲ檢スルニ石礫ハ少量ニシテ原土百分中三内外ニ過ギズ又細土分中粒徑粗大ナル砂子ハ極メテ少量ナルモ粒徑〇、五乃至〇、〇五ノ細砂ハ其量頗ル多シ蓋シ本土性ハ粗粘土成分ト砂子トノ比例其當ヲ得ザル組織ト云ハザルベカラズ又三日市土壤モ飯野村土壤ト其地質ノ系統ヲ同フシ黒部川沖積地ニ屬スルモ黒部川ヲ距ルコト遠ク且ツ地位稍高燥ニシテ第四紀古層地ニ接スルヲ以テ多少第四紀古層地土壤ヲ混交シ組織前者ノ如ク粗糲ナラズシテ適度ノ細質物ヲ含蓄シ良性ノ壤土タリ今其器械的組成分ニ徴スルニ石礫ハ原土中僅ニ百分ノ一内外ニシテ粒徑概ネ〇、五「ミリメートル」以下ノ細微土及粗粘土分ヨリ成リ土性輕鬆ニ失スルコトナク亦粘厚ニ過ギ

ズ寔ニ中庸其宜シキヲ得タル良性ノ土性ニ屬ス化學分析 黒部川沖積地ノ壤質砂土ニ屬スル飯野村土壤ハ有機質ニ乏シク鹽酸及炭酸曹達ニ溶解性成分頗ル少量ナリ然レドモ「アルカリ」土類ノ有効成分ハ普通量以上ニアリ特ニ苦土ハ百分ノ一以上ノ多量ヲ含蓄ス其他加里ノ現量ハ中庸ナルモ磷酸ハ普通含量以下ニアリ之ニ由リテ是ヲ觀レバ本土ハ化學的成分富饒ナリト云フベカラズ三日市土壤ハ前者ヨリモ有機質ニ富ミ且ツ植物ノ營養上主要ナル磷酸及加里ノ含量稍中庸ニ位スルモ石灰及苦土ハ普通量以下ニアリ以上ノ分析試験成績ニ依レバ本土壤ハ普通農作上必要ナル各成分ヲ具ハスト雖モ其現量概テ潤澤ナラザルヲ以テ隨時主要成分ノ缺乏ヲ補フノ必要アリ

吸收力試験 黒部川沖積地ニ屬スル飯野村土壤ハ黒部川沿岸ニ近接スル兩岸一帯ノ壤質砂土ノ鑑標土ニシテ吸收力試験ノ成績ヲ見ルニ其組織輕鬆ナルト共ニ磷酸及窒素ニ對スル吸收力高度ナラズ殊ニ窒

素ニ對スル吸收程度ハ頗ル薄弱ナリトス三日市村土壤ハ粗砂ヲ挾雜スルコト少ナク吸收力ヲ誘進スベキ細質物ハ比較的多大ナルニ依リ兩成分ニ對スル吸收力ハ共ニ普通程度ニ劣ルコトナシ要スルニ兩種ノ土壤ハ有機質ヲ含蓄スルコト未ダ適量ニ達セザルヲ以テ吸收力高ク度ナラザルモ將來土地ノ管理其宜シキヲ得テ有機物ノ現量適度ニ達セバ吸收力ハ一層強度ナルニ至ルベシ

理學性 黒部川沖積地ノ壤質砂土ニ屬スル飯野村土壤ハ組織頗ル輕鬆ニシテ孔竅モ亦多大ナリ然レドモ含水量ハ孔竅ノ潤澤ナルニ比シ甚ダ高度ナラズ粗密兩狀態ニ在リテ水濕ヲ飽和セシムルモ尙大氣ノ滲透スベキ餘隙ヲ存ジ深ク土層ニ大氣ヲ透導スルノ利アリト雖モ氣候乾燥ニ際シテハ土下ニ水濕ノ缺乏ヲ訴フルノ虞アルガ故ニ未ダ以テ完全ナル理學性ヲ具備スル土性ト云フベカラズ之ニ反シ三日市村土壤ハ適度ノ粗粘土成分ヲ挾雜シ組織稍稠密ニシテ含水量及孔竅共ニ其度ニ適ス又粗膨狀態ニ在リテハ水濕ヲ吸收スルモ尙餘隙ヲ存ジ

大氣ノ透入ヲ自在ナラシム然レドモ土層稠密ニ變ズルトキハ實積ヲ増加シ孔竅減退ノ結果濕潤ナル境遇ニ於テハ大氣ヲ透通セシムルノ餘地ヲ存セズ這般ノ土性ニ在リテハ屢、鋤犁ヲ施シ常ニ土層ヲシテ膨軟ナル狀態ニアラシムルヲ以テ利益トス

以上試驗成績ニ徴スルニ黒部川沖積地土壤ハ概テ氣水ヲ透通スルノ性ニ富ムモ水濕ヲ保持スルノ力稍薄弱ナルガ如シ而シテ是等ノ缺點ヲ補充センニハ努メテ基肥トシテ堆肥、綠肥、厩肥等ヲ充用シ猶補助肥トシテ他ノ濃厚肥料ヲ混加シ以テ能ク之ガ調和ヲ圖リ施用スルニ至レバ漸次或ル程度マデ改善シ得ベキヲ信ズ

海成沖積地土壤試驗成績
土壤試驗成績

土性	第四紀新層(海成沖積地)壤質砂土
地名	下新川郡村椿村字大角井
側斷面番號	XIX

分析ノ成績ニ徴スルニ原土ハ殆ンド粒徑〇、五以下ノ細微土ヨリ成ル
 モ所謂粗粘土分ト稱スル細質物ニ乏シクシテ頗ル細砂ニ富ミ組織稍々
 輕鬆ナル器械的組成ヲ有ス且ツ下層ハ砂土、礫土ヨリ成リ排水自在ニ
 シテ上層ハ水濕ノ欠乏ヲ來タスノ憂アリテ土性ノ構造ハ良好ナリト
 云フベカラズ

化學分析 本土ハ鹽酸及炭酸曹達ニ可溶性成分ヲ現存スルコトノ少
 ナキ割合ニ有効成分ナル石灰及苦土ハ普通量以上ニアリ磷酸モ亦普
 通土壤ニ於ケル現量ヨリモ遙ニ潤澤ナリ只加里成分ニ至リテハ其含
 量中庸以下ニアリ

以上ノ分析成績ニ徴スルニ本土ハ加里ニ乏シク化學的組成成分ニ於テ
 ハ未ダ完全ナリト云フベカラザルモ元來加里成分ハ本邦在來ノ堆肥
 中ニ多量ニ含有シ且ツ之ヲ補フニ木灰ノ如キ有力ナル補助肥アリ且
 ツ至ル處其供給ノ便アルヲ以テ本成分ノ多少ハ生産上ニ著シキ影響
 ヲ及ボサバルベシ

吸收力試験 村椿村附近ノ土壤ハ洗滌分析ノ結果ニ示スガ如ク粗粘
 土分ニ乏シク又粘力薄弱ニシテ組織稍々輕鬆ナリ加之有機質ノ現存少
 量ナルニヨリ磷酸及窒素ニ對スル吸收力ハ頗ル薄弱ナリ這般ノ土壤
 ニ在リテハ可溶性速効肥料ヲ施用スルトキハ養分流失ノ恐アルヲ以
 テ成ルベク推肥其他ノ有機質肥料ヲ用ウベシ

理學性試験 本土ハ理學性試験ノ結果ニ依ルニ膨軟ナル状態ニ於テ
 ハ孔竅潤澤ニシテ且ツ適度ノ含水量ヲ保チ氣水ニ對スル性狀亦頗ル
 良好ニシテ水濕ヲ飽和セル境遇ニ於テモ尙大氣ヲ收容スルノ餘地ヲ
 存シテ容易ニ土層中ニ大氣ヲ傳導シ肥料ノ分解ヲ促進セシメ且ツ毫
 モ酸素ノ欠乏ヨリ起ル土層ノ總テノ有害作用ヲ誘發スベキ餘地ヲ存
 ズルコトナク佳良ナル理學性ヲ具備セル土性ト云フベシ然レドモ土
 層沈定壓迫シタル状態ニ於テハ罅隙縮少シテ毛細管引力ヲ増加シ水
 濕ノ傳導ヲ促シ終ニ大氣ヲ收容スベキ餘隙ヲ著シク減少シ理學性惡
 變スルヲ見ル此ノ如キ土壤ハ屢々鋤犁耕耘ヲ行ヒ成ルヘク膨軟ノ状態

ニアラシムルヲ以テ最モ適應ノ整理法ナリトス
 各沖積地土性ニ關スル注意概要
 域内低夷ノ地ヲ構成セル地層ハ河成沖積及海成沖積ニ屬ス是等ノ各
 種土性ニ就テハ既ニ前章ニ於テ詳説セリト雖モ今各沖積地ノ土性ヲ
 總括シテ之ヲ概説スレバ組織概テ輕鬆ニシテ孰レモ粘性ヲ欠キ地位
 低濕ナル窪地及第三紀層、第四紀古層ヨリ成ル臺地ニ接近セル局部ヲ
 除クノ外ハ粘質ニ失セズ亦砂質ニ偏セザル良好ノ土性タリ而シテ是
 等各種ノ土壤中其組織輕鬆ナルト粘厚ナルトヲ問ハズ其化學的有効
 成分ハ其量潤澤ナラズ殊ニ窒素及磷酸成分ニ乏シキヲ以テ是等兩成
 分ノ補充ハ施肥上最モ注意スベキ事項ナリトス又加里ノ現存モ饒多
 ナラズト雖モ總テ本邦在來ノ肥料中ニハ之ヲ含有スルコト多量ナル
 ヲ以テ窒素及磷酸ノ如ク特ニ補充ノ必要ナカルヘシ本域内沖積地土
 壤ノ缺點トモ云フベキハ本邦普通ノ沖積地ニ比シテ有機物ノ少量ナ
 ルニアリ元來土壤中有機質現存ノ必要アルハ土壤ノ養分吸收作用ニ

重大ノ關係ヲ有スルノミナラズ其水濕ニ對スル感應上影響スルコト
 多キニ依ル特ニ組織輕鬆ナル土性ニ在リテハ一層其効力ノ大ナルヲ
 認ム而シテ其腐植質ノ現存モ或ル適應ノ程度ニ在ルトキハ土壤ノ品
 位ヲ高メ其効力多大ナリト雖モ其度ヲ超過スルトキハ植生上反テ有
 害ヲ醸スベシ此ノ如キ土性ハ多ク第三紀層地、第四紀新層地ニ多シト
 ス
 施肥上各沖積地土性組織ノ關係ニ就テ留意スベキ要項ヲ述ベンニ沖
 積地土性ノ養分吸收力ハ概テ薄弱ナルヲ以テ溶解性肥料ハ數回ニ之
 ヲ分施スルヲ可トス有機質肥料(厩肥、堆肥及綠肥等)ハ域内各沖積地ノ
 土質輕鬆ナル局部ニ在リテハ素質ノ儘施用スルモ容易ニ之ヲ分解ス
 ルノ機能アリト雖モ稍粘質ニ富ミ排水ノ不充分ナル局所ニ在リテハ
 之ヲ堆積醱酵セシメ其腐熟スルヲ待テ後之ヲ使用スヘシ此ノ如ク年
 々歲々有機質肥料ヲ施用セバ漸次腐植質ノ原料ヲ増進シ竟ニ適度ニ
 達スルニ及ビテ其吸收力ヲ高メ以テ土性ヲ改善スルニ至ルベシ

城内各冲積地ハ概テ紫雲英ヲ栽培シ之ヲ綠肥トスルノ習慣アリ是レ
 土性ニ適應セル肥料ヲ得ルニ於テ頗ル適切ノ農法ト云フベキナリ元
 來紫雲英ノミナラズ總テ莖料植物ハ其根部ニ寄生セル微生物ノ媒介
 ヲリ大氣中ノ有離窒素ヲ吸收シテ之ヲ莖葉ニ集積シ且ツ之カ栽培地
 土壤中ニモ幾分ノ窒素ヲ遺留スベキヲ以テ肥料代價ヲ節約スルコト
 極メテ大ナリトス今農商務省農事試驗場ニ於テ施行シタル綠肥用莖
 料植物ノ農業上ニ於ケル効果試驗成績ヲ掲ゲ參考ニ資セン

種類名	一反歩生草收穫		同 上 乾草		乾草百分中窒素 [%]	壹反歩ニ對スル 收穫中窒素總量
	量	價	量	價		
苜蓿	一〇〇〇、〇	〇	一九五、三九〇	〇	二、八二九	五、五二八
紫雲英	一〇〇二、〇	〇	一七三、八四七	〇	二、四二五	四、二二六
ツメ草	九三六、〇	〇	一三四、一二七	〇	二、七二五	三、六五五
豌豆	五六四、〇	〇	一〇四、九〇四	〇	二、四六一	二、五八二
蠶豆	四八九、〇	〇	一〇五、三八〇	〇	二、六八二	二、八二六

前表ニ示スガ如ク成績最良ナルハ苜蓿ナリ之ニ次グモノハ紫雲英ニ

シテ一反歩ニ付四貫餘ノ窒素ヲ集積スベキヲ以テ凡ソ稻田約三反歩
 ニ施用シ得ベキ窒素ノ量ヲ示ス是ニ由リテ之ヲ見レバ域内冲積地ノ
 如ク其區域廣濶ニシテ山野ニ遠ク山藪ヲ得ルニ不便ニシテ又牛馬ヲ
 飼養スルモノ少ナキ爲メ厩肥ヲ専用スルコト能ハザル地方ニ在リテ
 ハ高價ノ魚肥ヲ使用スルヨリモ寧ロ紫雲英ヲ栽培スルヲ以テ遙ニ經
 濟ナルコト明ナリ然レドモ漸次農口ノ増殖ニ伴ヒ土地使用ノ程度ハ
 益々頻繁トナリ勢ヒ冬作ノ栽培ヲ見ルニ至ルベシ既ニ現時ハ年々麥作
 ヲ増加シツ、アリ此ノ如キ現況ナルヲ以テ將來綠肥ヲ得ント欲セバ
 大豆ヲ間作シ之ヲ稻田ニ刈入レ以テ綠肥トスルニアリ大豆ノ間作ハ
 從來各地方ニ於テ肥料ニ供用セラレ既ニ其有利ナルコトヲ認メラレ
 タリ今農事試驗場ニ於テ施行セル試驗成績ヲ擧クレバ左ノ如シ

種類	一反歩ニ付莖葉吸量
夏大豆	一五〇、六〇〇
秋大豆	二三七、三〇〇

大豆間作ハ前記ノ如ク肥料トシテ偉大ノ効驗アリ四月中旬二毛作麥若クハ薯苔ノ畦間ニ一反步五斗乃至一斗ノ割合ヲ以テ點種セハ六月中旬ニ至リ其莖葉繁茂スベキヲ以テ之ヲ根際ヨリ艾取シ一兩日日光ニ曝露シ其稠萎シタルヲ度トシ稻田整理ノ際之ヲ鋤キ込ムベシ而シテ更ニ磷酸肥料ヲ補給スルノミニテ他ニ何等ノ肥料ヲ混加スルノ要ヲ見ズ

第四章 鑛肥

鑛肥トハ天然ニ產出シ植物ノ營養上直接或ハ間接ニ最モ必要ナル鑛物ニシテ其種類甚ダ多シト雖モ要スルニ窒素、磷酸、加里及石灰ヲ含有セル鑛物ニ外ナラズ以上ノ窒素、磷酸及加里ヲ包藏セル鑛物ハ直接ニ肥料ノ効果ヲ有スルモ石灰ニ在リテハ其植物ニ及ボス効果ハ間接的ナルヲ以テ之ヲ間接肥料用鑛物ト稱ス元來石灰ハ普通土壤中多量ニ存在シ植物ノ生育上敢テ其補充ヲ要セザルモ之ヲ農業ニ應用スレバ専ラ耕土ノ組織ヲ改良シ得ベシ即チ粘性ヲ調和シテ土地ヲ改善シ又

過度ナル腐植質ノ分解ヲ促シテ有害性物質ヲ消滅シ併セテ土壤中所含ノ有効成分及有機性肥料ヲシテ可給的狀態ニ變ゼシムル等其間接作用ノ効力蓋シ鮮少ナラズ域内ニ於テ產出スル肥料鑛物ハ石灰岩及泥灰岩ノ二種アルノミ圖中石灰岩ノ產出地ハ夥多ニシテ之ヲ枚舉スルニ遑アラズト雖モ要スルニ石灰岩ハ片麻岩及秩父古生層中ニ之ヲ挾雜セリ而シテ其片麻岩中ニ產出スルモノハ結晶碳酸石灰ニシテ單ニ肥料用ノ外工業用等ニ使用スルコト能ハズ之ニ反シ秩父古生層中ニ產出スルモノハ其組織緻密ニシテ概ネ白色ノモノ多ク肥料及「セメント」用ニ燒成シ得ベシ今圖中石灰岩產出ノ主ナル地方ヲ舉グレバ上新川、下新川及礪波ノ三郡ニシテ就中礪波及下新川二郡ノ產出最モ多ク兩郡共ニ其一箇年ノ產出額ハ五十萬俵ニシテ其價格三萬圓内外ノ巨額ニ達ス而シテ其需要ノ目的ハ主トシテ肥料用ニ供スルニアルヲ以テ農作上石灰ノ稍濫用セラル、傾向アルヲ窺知スルニ足ルベシ之ニ次ギテ巨額ノ產出アルハ上新川郡ニシテ同郡龜谷村、中地山村及蘆

寺村ノ三箇所ノ灰爐ニ於テ一箇年間單ニ肥料用トシテ燒成セル高ハ約三十萬俵其價格凡ソ二萬圓内外ニ上レリト云フ
 茲ニ石灰ヲ施用スルニ當リテ注意スベキ事項アリ元來石灰ハ前述ノ如ク土壤ノ成分ヲ分解スル機能アルモノナルガ故ニ石灰ノ施用ト共ニ地力ハ年々漸ク衰耗ニ傾キ加之底土凝固シテ著シク生産力ヲ損フニ依リ豫メ土性及現場ノ状態ニ鑑ミ其果シテ石灰ヲ施用スルノ必要アルヤ否ヤヲ調査シタル後之ヲ施用シ決シテ濫用セザランコトヲ要ス而シテ之ガ使用上實利ヲ收ムベキハ其土性ノ低濕ナル泥炭地、過度ノ腐植質ヲ挾雜セル土地若クハ山間ノ田圃等ニシテ每次多量ノ山藪ヲ施シ或ハ常ニ厩肥、綠肥等ノ有機質肥料ヲ施シ分解不充分ト認めタル土地ニ限り適宜之ヲ施用スルニアリ蓋シ其ノ効果ノ著大ナルヲ見ルモ決シテ連年施用スベキモノニアラズ
 泥灰岩ハ北米各衆國ニ於テハ肥料用トシテ盛ニ採集セラル今千九百年「ヴァージニア」州ニ於テ採集セシ高ハ約十萬噸ニシテ其價格十數萬弗

ナリ蓋シ邦内ニ產出セル泥灰岩ハ米國ノ如ク磷酸及加里ノ含量豊多ナラザルヲ以テ米國產ノ如ク地力恢復ノ目的ニ使用スルコト能ハザルモ單ニ石灰石ノミヲ使用スルヨリ遙ニ有利ナルヲ信ズ域内ニ使用スル泥灰岩ハ能登半島ニ連互セル第三紀層ノ砂質岩中ニ挿間スルモノニシテ之ヲ採集シテ「セメント」ニ用ウルモ亦肥料ニ使用スルコトヲ得今射水郡泊村及同郡宇波村產ノ泥灰石ハ碳酸石灰及碳酸苦土ヲ加ヘバ七〇%餘ヲ含有スルノ外尙多少ノ磷酸及加里ヲ現存セリ而シテ石灰ト其使用ノ方法ヲ同フス

第五章 結論

凡ソ土壤生産程度ノ強弱ハ其地方ノ氣候、地位、地勢及經濟上ノ狀況ニ依リ左右セラレ、モ要スルニ最モ重大ナル關係ヲ有スルモノハ全ク土壤ノ理化學的性質ノ状態如何ニアリ故ニ土壤ノ各含有スル植物養料ノ多少ハ直接植物ノ成育上ニ著シキ關係ヲ有スルモノニシテ是レ全ク事實ニ徴シテ明白ナル所ナリ然レドモ土地ノ所含養料ハ直ニ植

物ニ適スル状態ニ於テ現存スルコト極メテ少量ナリ是ヲ以テ土性ト植物ノ種類ニ鑑ミ肥料トシテ養分ヲ補充スル必要ヲ認ムル所以ナリ其他土壤器械的並ニ理學的性質ノ作物ノ成育發達上ニ及ボス影響ハ其化學的成分ニ於ケルヨリモ一層甚ダシキガ如シ故ニ土壤ノ組織佳良ニシテ日光及氣水ノ天然要素ニ對スル狀況亦其宜キヲ得其他農藝上諸般ノ要項ヲ具備スル土壤ニアラズンバ植物ノ發育ヲ完全ニシテ農業上好果ヲ收ムルコト能ハザルベシ今農業上最優ナル理化學的状態ヲ享有スル土性ノ構造ヲ舉ゲンニ土壤中植物ノ攝取ニ適應セル状態ニ於テ存在スルト共ニ是等養料ヲ吸收保蓄スルノ力強度ナルヲ要ス又土壤ノ器械的組成成分ノ配合其宜シキヲ得重粘ニ失セズ輕鬆ニ偏セズ其中庸ヲ得且ツ氣水ニ對スル性狀其度ニ適ヒ土中温暖ニシテ適度ノ氣水ヲ含有スルト同時ニ過度ノ水濕ヲ排除スルノ性アルヲ要ス此ノ如キ状態ヲ具備スル土壤ハ絶ヘテ望ムベカラザルコトニシテ必ズヤ一二ノ缺點アルヲ免レズ而シテ此等ノ缺點ハ肥料、耕耘、排水、客

土法及燒土法等ノ直接或ハ間接的土地改善法ニ由リテ其幾分ヲ填補スルニアリ

圖中ニ露出スル各種小岩層ヨリ成生セル土壤ノ性質ニ就テハ既ニ前章ニ於テ理化學的試驗ノ性質ニ基キ其生産上ニ及ボス關係及土地改善上ニ於ケル要項ヲ詳論セリ今ヤ本編ヲ終結スルニ臨ミ各地質系統ニ從テ分類セル土性ニ就キ其ノ生産程度ヲ比較概評セバ左ノ如シ花崗岩地ハ其領區廣大ナリト雖モ地位概テ峻險ナルガ故ニ農土トシテ利用ニ適スルモノニ至リテハ其面積極メテ狹隘ナリトス本岩ヨリ成レル土壤ハ其ノ器械的組成成分及理化學的性狀共ニ片麻岩土壤ニ酷似シ其植物ニ對スル生産程度モ亦同等ト見テ可ナリ班岩ハ域内數箇所ニ岩脈ヲ爲シテ露出スルモ其區域狹少ニシテ且ツ地勢最モ峻險農土トシテ應用スベキ箇所稀ナリ只僅ニ成出村ニ於テ極メテ狹少ナル農土ヲ構成シ其土性ハ壤土ニシテ良好ナル器械的組成ヲ有シ生産力モ亦中庸以上ニアリ

輝石安山岩地ハ立山連峯ノ國見山嶽ノ山腹ニアリテ稍平夷ナル臺地ヲ構成シ地勢農桑ニ適スル状態ナレドモ土壤ハ多量ノ腐植質ヲ挾雜セル埴土ニシテ地味瘠薄加フルニ地位高燥ニ過ギ冬季寒威酷烈ナレバ農土トシテ應用ニ適セズ然レドモ其西南部ニ露出スルモノハ東礪波郡和賀村附近ニ於テ農土ヲ構成スルモ其地積極メテ偏狹ナリ而シテ土性ハ概テ埴土ニシテ多少ノ植物質ヲ交ヘ地味豊饒ナラザルモ亦瘠地ニアラズ蓋シ植物ニ對スル生産程度ハ中位ニアルベシ

石英粗面岩地ハ域内獨リ東礪波郡平村ノミニ露出シ其區域極メテ狹隘ナリ而シテ耕土トシテ應用セラレベキ處ハ山腹ノ稍平夷ナル一小地點ニシテ其農産上ニ及ボス關係亦極メテ鮮少ナリトス本岩ヨリ成レル土壤ハ概テ砂質壤土ニシテ比較的粒徑粗大ナル砂子ニ富ミ組織輕鬆ニ偏スルガ故ニ其器械的組成良好ナリト云フベカラズ化學的成
分ハ磷酸現量中庸ナルモ加里及石灰ハ普通ノ含量ニ及バズ然レドモ養分吸收力ハ組織輕鬆ナル割合ニ強度ナルト氣水ニ對スル性狀ノ稍

佳良ナルトニヨリ之ヲ農土ニ利用シテ相當ノ利益ヲ收メ得ラルベキナリ

片麻岩地ハ域内露出ノ廣袤稍廣大ナルモ地勢概テ峻嶮ニシテ農作ニ適セザル所多シトス然レドモ地勢稍平夷ナル處ニ在リテハ既ニ農土ニ開拓セラル、モ其地積ハ圖中ノ總耕地面積ニ比シ極メテ狹隘ナルモノトス本岩ヨリ成レル土性ハ概テ砂質壤土或ハ礫質ノ壤土ニシテ未ダ充分ノ風化作用ヲ經過セザルモノ、如シト雖モ組織輕鬆ニシテ氣水ノ滲透自在ニ理學性良好ナリ加之化學的有効成分ニ富ミ且ツ養分吸收力モ亦強度ナリ蓋シ本土ノ器械的組成ノ輕鬆ナルニ比シ養分ニ對スル吸收作用ノ強度ナルハ原土中比較的少量ノ腐植質ヲ現存スルアルニ因ルモノナラン以上ノ理化學的性質ニ鑑ミルニ本土ノ生産力ハ中庸以下ニ下ラザルベシ

中生層地ハ域内數ヶ所ニ露出スルモ概テ山岳ニ屬シ地勢農桑ニ適スルモノ極メテ稀ナリト雖モ婦負郡細入村、上新川村、大山村等ニ露出ス

ルモノハ地位稍、平夷ニシテ農耕ニ適セリ然レドモ其地積極メテ狹隘ニシテ且ツ土壤ノ器械的組成良好ナラザルノミナラズ化學的有効成分ニ乏シク養分吸收力モ亦窒素ニ對シ薄弱ナリ加之理學性不良ナルノ缺點アルヲ以テ本土ノ作物ニ對スル生産程度ハ普通以下ニアルベシ

第三紀層地ハ富山平原ヲ圍繞シ其廣袤宏大ナリ且ツ地勢稍、緩夷ニシテ他ノ古期水成岩ノ如ク峻嶮ナラズ從テ農土ニ利用スベキ地積モ亦少ナシトセズ然レドモ本層地ハ地位高燥ニシテ交通水利共ニ稍、不便ヲ感ズルノミナラズ地味概テ瘠薄ニシテ其生産力低度ナル等ノ不利アルヲ以テ目下農土トシテ供用セラレツ、アルモノ其面積比較的狹隘ナリト雖モ將來人口ノ増殖ニ伴ヒ永ク荒蕪ニ委棄セラレザルハ自然ノ趨勢ニシテ漸次開發セラレベキヲ信ズ本層地農土ノ土性ヲ通覽スルニ概テ埴土質ノ土壤ナルモ第三紀層砂岩層ヨリ成レル土壤ハ稍、砂子ニ富ミ壤土ヲ構成ス而シテ此種ノ土性ニ屬スル農土ハ其地積狹

隘ナリ今第三紀層地ヨリ成レル各種土壤ノ試驗成績ヲ總括シテ概評センニ其組織概テ稠密ニシテ粘重性ニ富ミ鋤鋤ニ對スル抵抗力ノ強キハ土地整理上頗ル困難ヲ感ズル所以ニシテ是レ器械的組成ノ不良ナル結果ナリ化學的有効性成分及養分吸收力ニ就テハ敢テ非難スベキ點ヲ認メザルモ氣水ニ對スル性狀極メテ劣惡ナルニ依リ霖雨ニ際シテハ土層中ニ過度ノ水分ヲ保蓄センメ植生ニ有害ナル種々ノ化學的作用ヲ誘發スルノ憂アルト又其乾燥セル状態ニ變移スルトキハ土層凝固シテ植根ノ繁茂ヲ阻害スル等旱濕兩候ニ對シ共ニ好果ヲ收ムルコト能ハザルノ缺點アリテ爲ニ理學的性狀極メテ不良ナルヲ示セリ蓋シ本層地土性ノ生産力ノ低度ナル一ニ理學性ノ不良ナルニ原因スルモノト云フベシ

第四紀古層地域内ニ發達セル第四紀古層地ハ其面積稍、廣大ニシテ地勢概テ平夷水利亦便ナリ是ヲ以テ第四紀新層ニ次ギテ農業上重大ナル關係ヲ有スル地層ニ屬ス本層地ヨリ成レル土壤ハ概テ組織稠密ニ

二百三十二

シテ粘厚性ニ富ミ大氣及水濕ノ收排ニ不利ナル器械的組成ヲ有シ第
三紀層地土性ニ彷彿タリ本層地土壤ハ概シテ腐殖質ヲ挾雜シ其ノ量
適度ニ在ルトキハ粘性ヲ調和セシメ種藝上頗ル効果ヲ認ムルモ過度
ノ在存ハ反テ土性ヲ惡變スルヲ見ル即チ大澤野一帶ノ第四紀古層腐
殖質土性ニ於ケルガ如キ劣惡ノ土性ニ變移スルニ至ル五百町附近ノ
本層地土性ハ器械的組成良好ニシテ從テ理學性モ亦善良ナルヲ見ル
然レドモ是等ノ土性ハ域内甚ダ稀ニ見ル處ナリ今本層地各種土性ヲ
總覽スルニ其化學的有効成分ハ敢テ瘠薄ナラズ養分吸收力モ亦強度
ナリト云フベキモ理學性ハ一般ニ不良ニシテ恰モ第三紀層地土性ニ
酷似ス而シテ其生産上ニ於ケル程度ハ亦低度タルヲ免レザルベシ第
四紀新層地ハ域内ニ露出セル各種地質系統ニ屬スル岩層地中最モ廣
大ナル農地ヲ占領シ農業上最モ重大ナル關係ヲ有ス本層地ハ圖中諸
河川ノ沿岸及富山平原低濕ノ地ニ沈渣堆積シタル地層ナルガ故ニ其
河川ノ發源地及經過地ノ地質ヲ異ニスルト共ニ各自其堆積物ノ理化

學的性質ヲ異ニスト雖モ各沖積層土性ハ流域及海濱ニ接近セル砂礫
ノ土層ヲ除クノ外ハ概テ良質ノ壤土或ハ砂質壤土ヨリ成ル而シテ其
所含ノ化學的有効成分ハ敢テ潤澤ナラズ且ツ養分吸收力モ高度ナラ
ザルノ缺點ナキニアラズ然レドモ氣水ニ對スル理學性其宜シキニ適
シ土層中ニ起ル有利ナル理化學的作用ヲ促進シテ肥料ノ分解ヲ容易
ナラシムルノミナラズ風化營力ヲ誘發スルニ因リ其缺點ヲ補充スル
ヲ得ベシ要スルニ本層地土壤ノ生産力ハ肥培ノ方法其宜シキヲ得バ
蓋シ各種岩石ヨリ成レル各種土壤中ノ最優位ニ達スルニ至ルベシ

越中國土性圖說明書終

明治三十八年三月廿五日印刷
明治三十八年三月廿七日發行

著作權所有 農商務省地質調査所

東京市京橋區築地二丁目二十番地

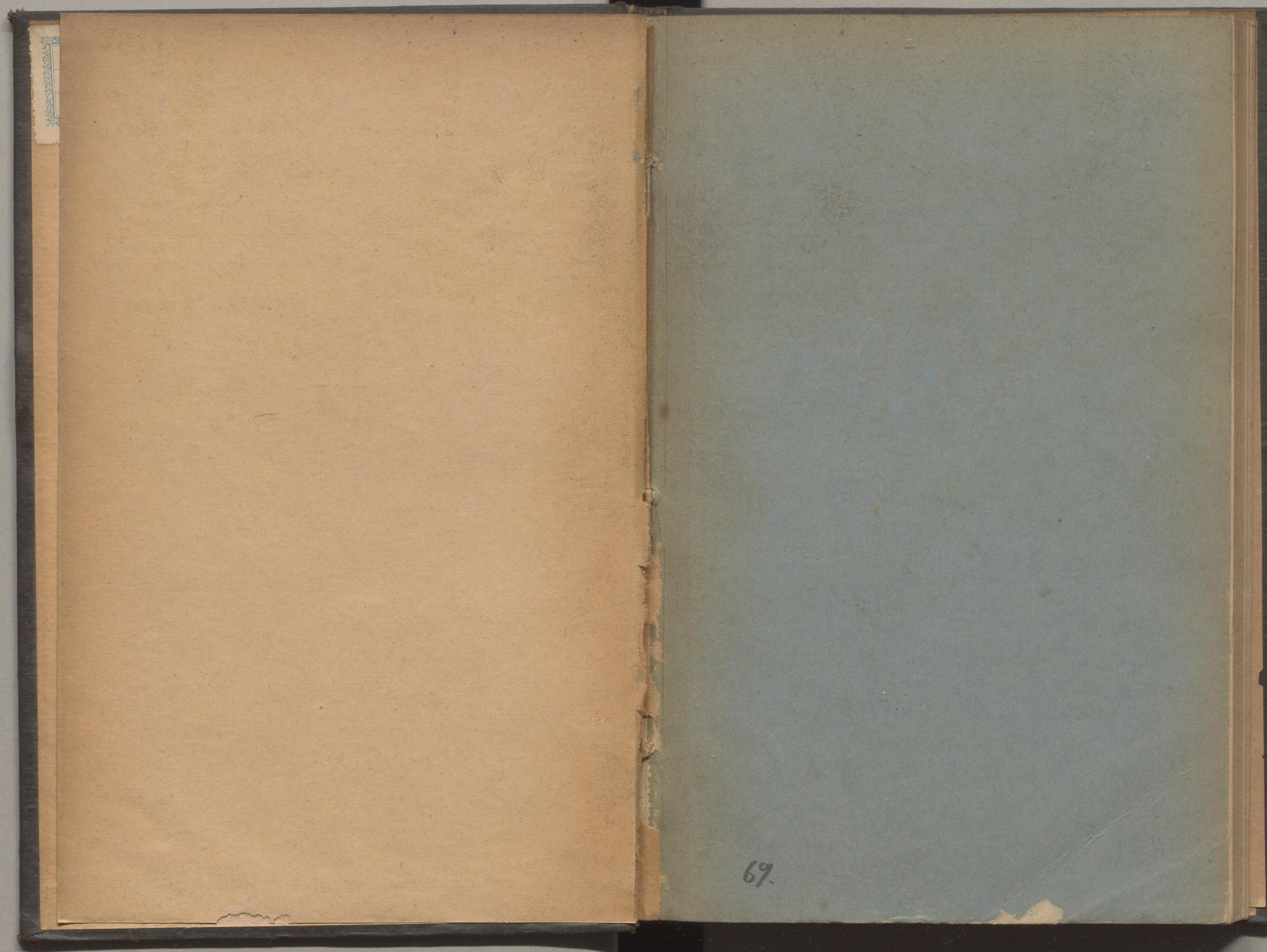
印刷者 河本龜之助

東京市京橋區築地二丁目廿一番地

印刷所 株式會社國光社

24
326

Vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to read, but appears to be organized into several columns.



69.

24
326

